

10  
月



# 美園小だより

令和6年9月30日  
さいたま市立美園小学校  
第169号 児童数 1064名  
Tel 048(812)6611  
Fax 048(878)6660

おかげさま

校長 河野 秀樹

おかげさま



「お釈迦さまの手」という話を先輩から聞いたことがあります。ある時、お釈迦さまが天上から人間の世界を見ていると、一人の男が汗をかきながら荷車を引いていた。やがて荷車がぬかるみにはまり、動かなくなりました。困った男は誰かに手伝ってもらおうと思ったが誰もやってこない。時間が過ぎ、とうとう日が暮れかけてきた。男は心を決め、自力で荷車をぬかるみから引っ張り出そうとし始めた。この様子を見ていたお釈迦さまは、男が人に頼らず、自分の力で問題を解決しようとしたときにはじめて「見えない手」を伸ばし、その指先で荷車を

を押してやった。すると、荷車はあっさりとぬかるみを抜け、何事もなかったかのようにカラカラと音を立てて動き出した…。もちろん、男はお釈迦さまが押してくれたことには気付いていない。自分の力で引っ張り出したと思っている。「よい教師」とは、このように「教わる側に教わっている」という自覚がないまま、自力で考えるように仕向けることである。こうすることで、「自分の力で学んだ」「理解した」「成長した」と自信をもつことができるのだと、先輩は伝えたかったのです。

私は、2学期始業式で、「同じ出来事でも色々な見え方がある。誰もが同じように考えるとは限らない」と話をしました。美園小の子どもたちは、日頃からきれいな学校で、おいしい給食を食べ、安全に登下校しています。このことは子どもたちにとって当たり前のことかもしれませんが、本当にそうでしょうか。見方を変えてみると、私たちの日常生活は、気が付かないだけで「誰かのおかげ」に支えられていることに気が付かされます。

9月、3年生が国語で「取材したことを報告文に」の学習をしました。私たち管理職を含め、学校で働く事務の中村さんや吉野さん、校務の堀川さん、栄養士の熊谷さん、図書館の杉田さん、保健室の廣松先生、男座先生、用務員の田村さんにインタビューをしました。田村さんは、夏休みも暑い中、校地内外の草刈り、昇降口周辺のタイル清掃、畑の整備、廊下の地図掲示等々していました。そのことについて、「田村さんが外で頑張っているときには、ちゃんと挨拶やできれば手伝いなどもしたいなあと思いました」などと考える子がいました。気が付かないところで自分たちのために仕事をしていてくれる人たちの存在を知り、感謝の気持ちを持ち、自分にできることを見つけようとしていました。子どもたちの登下校では、保護者の皆様や地域の防犯ボランティアの皆さん方も、酷暑の中、長時間の旗振りなどの見守りをしてれています。このことは10月の講話朝会で紹介しようと思っています。

今、校舎内には左上に示した美園小の「おかげさま」が表示されています。学校生活の中で「自分の力で成し遂げられた自信や自己肯定感」を育むとともに、「感謝の心」を大切にしてほしいというシンボルです。保護者や地域の皆様には、2学期も子どもたちが元気に過ごせるよう、引き続き「おかげさま」として御支援いただければと存じます。